

## 北潟湖ほとりの古代役所と塩づくり

### ほそろぎばんどうやまいせき —細呂木阪東山遺跡—

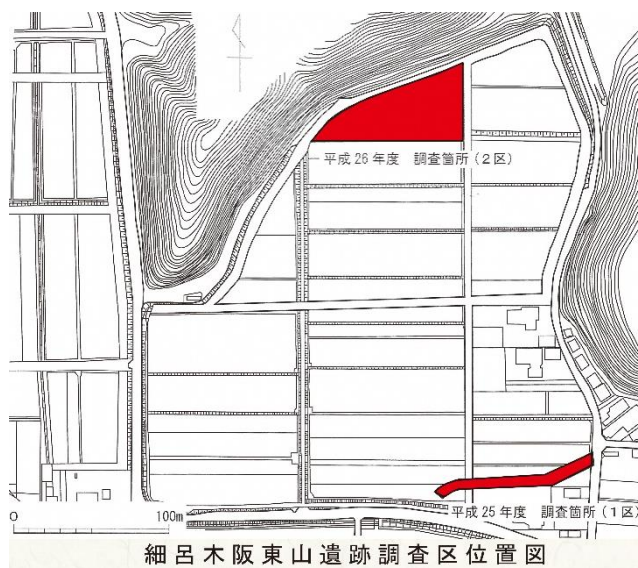
はじめに

新型コロナウイルスという、未曾有の危機が世の中を覆い、多くの人たちが大変な思いをされたことと思います。当館も昨年度は臨時休館を行うなど、大きな影響を受けました。本展は、本来であれば昨年度に実施する予定でしたが、新型コロナウイルス拡散防止により延期としました。今年も開催するかどうか、非常に悩まされましたが、地元へ歴史文化を発信し続けることの大切さを、昨年度の臨時休館中に痛感したことから、本年度にこの企画展を開催することにいたしました。

展示は、平成25・26年度に福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにより発掘が行われた、細呂木区にある「細呂木阪東山遺跡」の調査成果を中心に行っています。遺跡の調査面積は約2,800㎡に及び、古墳時代～平安時代を中心とした大量の遺物が検出されています。それらから、あわら市の古代について読み取れたことを展示しておりますので、お楽しみください。

#### 1. 細呂木阪東山遺跡

細呂木阪東山遺跡は平成25年度～26年度の2ヵ年で、南東部480㎡(1区)、北部4,840㎡(2区)の調査が実施されました。注目すべきは北部で、河川と考えられる溝や掘立柱建物跡などの遺構の他、樋山遺跡に続き製塩炉も検出されています。出土遺物としては樋山遺跡同様に製塩土器が多数出土した他、県内遺跡としては珍しい6世紀前半の須恵器、官衙(役所)の存在を想起させる墨書土器、祭祀に使用されたと考えられる木製品など、とても興味深い遺物が数多く出土しています。





細呂木阪東山遺跡2区全景



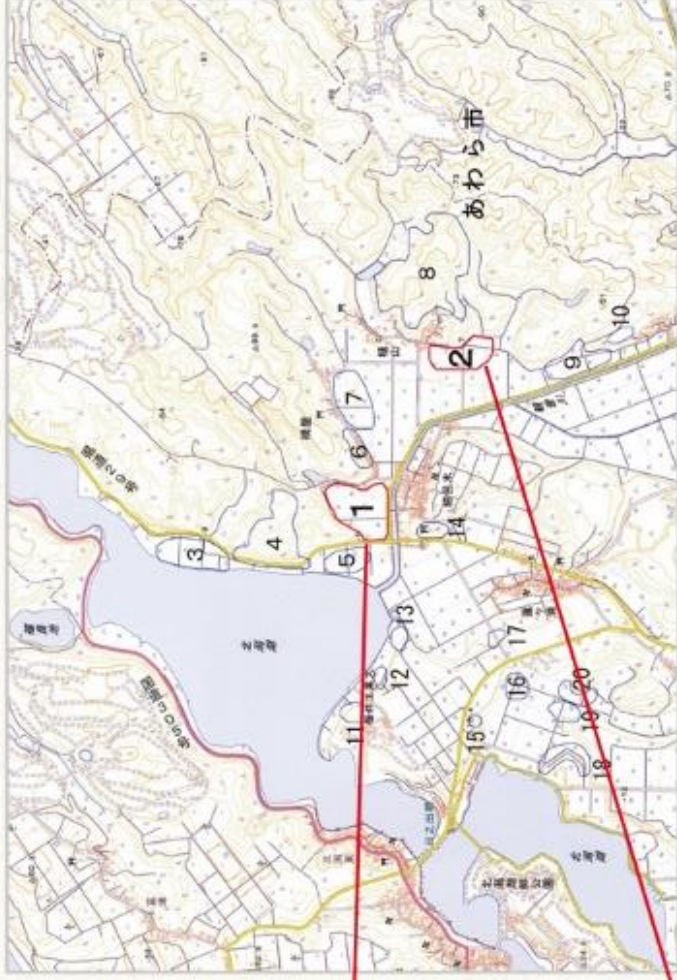
細呂木阪東山遺跡1区b全景



細呂木阪東山遺跡1区b全景

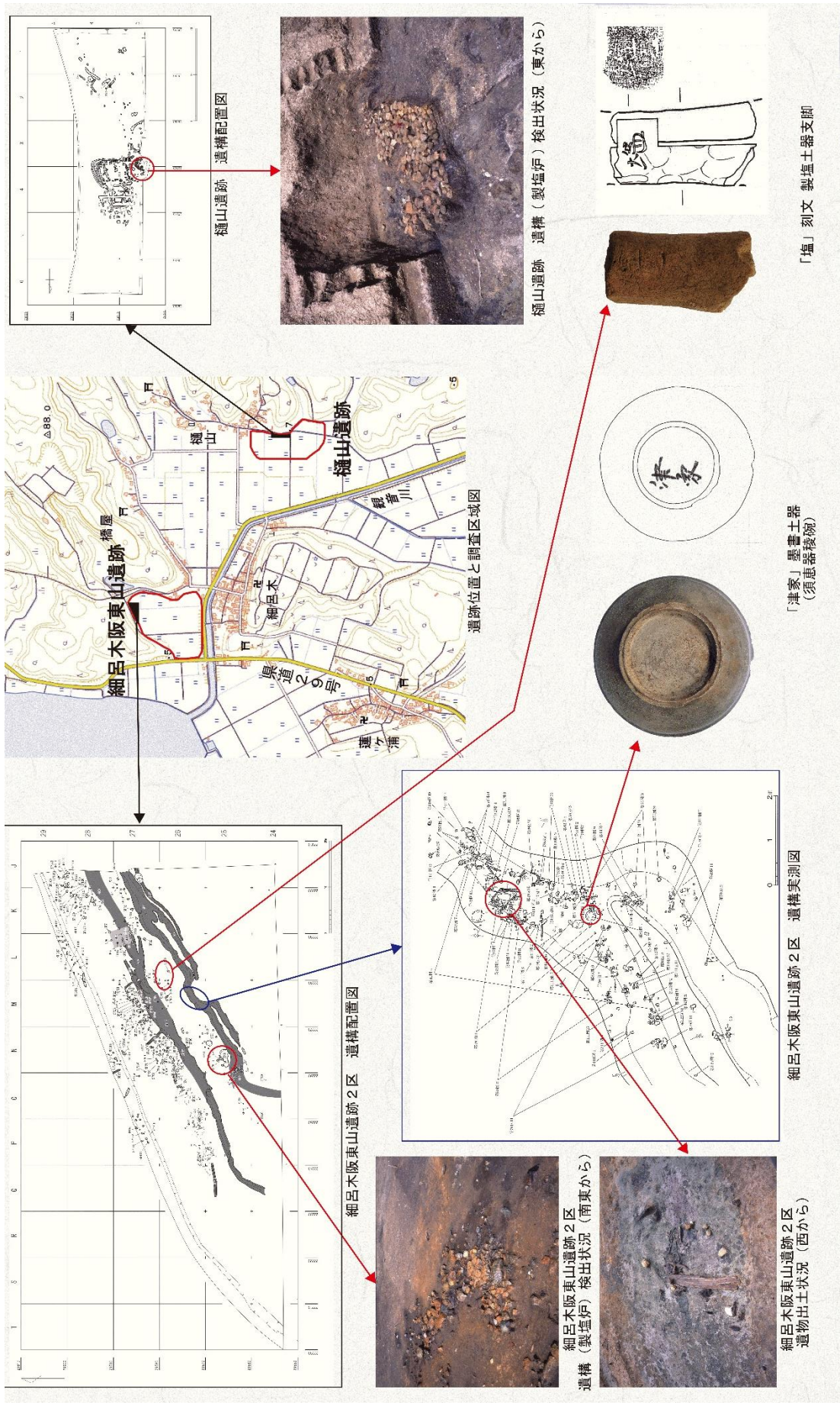


槌山遺跡全景



遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡概況	出土遺物	遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	遺跡概況	出土遺物
1	細呂木阪東山遺跡	細呂木	古墳～平安		須恵器	11	北湖高江遺跡	北湖	平安・近世		製塩土器
2	槌山遺跡	槌山	古墳～中世		製塩土器	12	北湖中之木下遺跡	北湖	縄文・弥生		
3	細呂木江尻下輪遺跡	細呂木	奈良・平安			13	知原遺跡	北湖	縄文・弥生	貝塚	
4	細呂木城跡	細呂木	中世			14	細呂木筋跡	細呂木	中世～近世		
5	細呂木芝罎遺跡	細呂木	奈良・平安			15	菅原遺跡	瀬ヶ浦	縄文		
6	福徳寺跡	細呂木	中世			16	北湖橋杖遺跡	北湖	縄文・中世		
7	橋原遺跡	橋原	中世			17	瀬ヶ浦米田遺跡	瀬ヶ浦	不詳		
8	槌山城跡	槌山	中世			18	北湖小菅部遺跡	北湖	縄文・中世		製塩土器
9	細中大坪遺跡	細中	奈良・平安			19	北湖南苗代遺跡	北湖	縄文・平安		製塩土器
10	細中古墳群	細中	古墳	2基		20	北湖西浦木田遺跡	北湖	弥生・平安		製塩土器

槌山・細呂木阪東山遺跡と近隣の遺跡位置図



細呂木阪東山遺跡・樋山遺跡調査図

## 2. 遺跡出土の須恵器の特徴

細呂木阪東山遺跡は、5世紀末から8世紀ぐらいの痕跡が残る遺跡と考えられており、出土遺物のうち、焼き物では素焼きの土師器と、当時の新しい技術で製作された須恵器の2種類が主に使われていました。須恵器では、古墳時代と奈良・平安時代のものが集中的に見られます。

古墳時代の須恵器の特徴としては、古墳の副葬品として用いられることの多い、甗・台付壺・提瓶・器台などが出土しています。近くに古墳は確認されておらず、何らかの事情で当地に集められていたと考えられます。また、越前国では、5世紀中頃に地元での須恵器生産は始まっておらず、主に大阪府南部の陶邑窯跡群で作られた須恵器を入手して使用していたと考えられていました。しかし、本遺跡からは5世紀末から6世紀前半頃の須恵器が大量に見つかりました。これらは、陶邑産の須恵器とは、色合いも使用された土なども異なることから、地元で生産されたと考えられます。そして、現在、越前国で最も古いとされる、本市の劔岳地区にある鎌谷窯跡群よりも古い時期のものであることから、まだ発見されていない越前国内最古の須恵器窯跡が本遺跡の周辺に存在していた可能性を示唆しています。

律令期以降の須恵器の大きな特徴として、墨で文字の書かれた墨書土器、硯として再利用された転用硯、金属器の形を写した稜坑などの存在があげられ、これらは官衙と呼ばれる古代の役所から出土することが多い遺物です。



番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	かまだにかあどとん 鎌谷窯跡群	鎌谷	古墳～平安	市内最古の須恵器窯、埴輪も生産
2	かわらだにかあどと 瓦谷窯跡	東山	奈良	3基(うち2基消滅)、古代瓦も生産、1971年県教委調査
3	すがのしむいたいせき 菅野式枚田遺跡	菅野	不詳	
4	みやたにやうたかき 宮谷鳴田窯跡	宮谷	古墳～平安	
5	きいおううえのたかあんと 清王上野田窯跡	清王	不詳	
6	かきほらでらかいちかあんと 柿原寺垣内窯跡	柿原	古墳～平安	市指定史跡「柿原窯跡」(山十楽)含む
7	かきほらくまのこかあんと 柿原能(龍)子窯跡	柿原	古墳～平安	1993～94年金津町教委調査、2017年県教委調査
8	かきほらさんみだんかあんと 柿原三宮谷窯跡	柿原	古墳～平安	
9	かきほらかえりかあんと 柿原中挟窯跡	柿原	古墳～平安	
10	たぬのたにいせき 滝岡ノ谷遺跡	滝	奈良～中世	県遺跡地図では散布地

市内の須恵器窯跡分布図

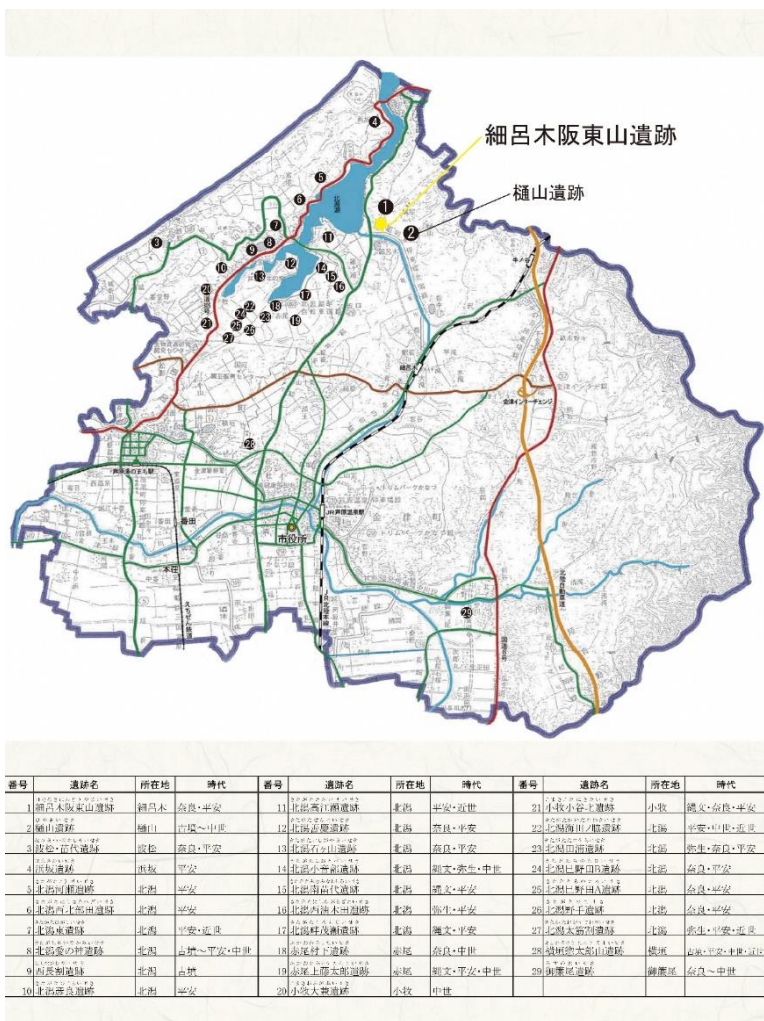
### 3. 北潟湖周辺の土器製塩

北潟湖の周縁は、分布調査で、多くの遺跡から製塩土器片がみつかりました。さらに、樋山遺跡・細呂木阪東山遺跡の発掘調査で、石敷きの製塩炉が相次いで発見され、この辺りで製塩作業が行われていたことが確実となりました。

両遺跡出土の製塩土器には、若狭地方の古墳時代中期頃にあたる形のものには未確認で、底部の形などから7世紀末以降の時期にあたると考えられています。しかし、若狭地方において8世紀代の船岡式と呼ばれている、器壁が厚くて大型化した平底の製塩土器が、両遺跡には全く無く、大きさがほぼ半分以下で、器壁も非常に薄い平底の土器がほとんどです。このような土器は、海水の塩分濃度を高めるための採鹹作業ではなく、主に煮詰めるための煎熬作業に使われたことが想定されています。

両遺跡からは、小型丸底の製塩土器を支えたとされる土製の支脚が多数出土しており、若狭地方の支脚に似た、穴の開かない中実(ちゅうじつ)のもの(展示 55, 58, 59)と能登地方の糸巻形の支脚に似た中央に上下に貫通する穴

の開いた中空のもの(展示 56, 57, 60, 61)の両方が確認されています。このうち、若狭地方に似たものは、吉見浜式(展示 59~61)が中心となっています。これらの支脚の上に小さな甕形の土器をのせ、主に工程終盤の焼塩作業に使用されたと思われます。他に、中実のものを太くしたもの、三角莢状支脚とした、細長くて下部の先端が尖らせたもの(展示 70~73)、さらに、細呂木阪東山遺跡には、類例の少ない支脚の下部が三方向に突き出た三足の



市内の製塩関連遺跡分布図

もの（展示 74～78）もありました。また、支脚の外面に記号や文字が刻印されたもの（展示 64～69）が多く確認されたことも、大きな特徴です。

#### 4. 墨書土器

墨書土器とは文字や記号、絵などが墨で書かれている土器のことで、細呂木阪東山遺跡からは 100 点以上が出土しています。

その中でも、特に注目されるのが「津家」①と墨書されたものです。津は川湊などを指す言葉で、遺跡が北潟湖に面して立地していることなどから、何らかの港湾施設があったことを示唆しています。

また、地名を指す「長畝」④・⑫もあります。長畝は越前国坂井郡十二郷の一つで、現在の坂井市丸岡町北部辺りと考えられています。奈良時代には資料に現れ、遺跡とも時期的に重なります。

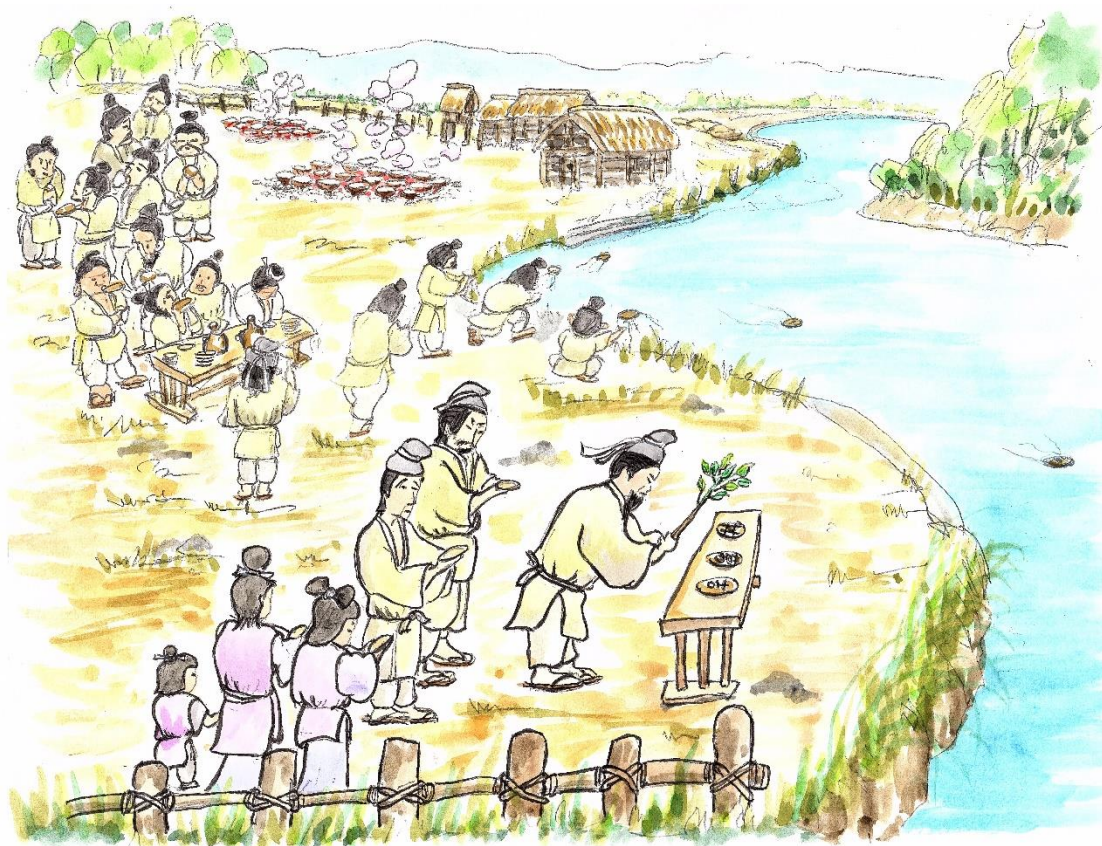
他にも、人名と考えられる「泰木王古」②、吉祥を表す「吉」⑩、まじないの記号と思われる「井」⑪など、これらを合わせると、役所的な施設があったことが想像されます。



## 5. 祭祀に用いられた木製品

大昔、政治は「まつりごと」といい、祭祀と政治は同一のものを指していました。古代においても祭祀は政治と近い関係にあり、例えば地方の官衙（国府や郡家など）は宗教、祭祀上の機能を担っていました。その関連遺跡からは祭祀に関する人面墨書土器・人形・土馬・斎串などの遺物が大量に出土することがあり、これらは水場の祭祀と関連があると考えられています。人面墨書土器は、人面が疫病神を表現したものといわれ、病気になった人が息を吹き込み、川や溝に流したものと考えら、県内では福井市の高柳遺跡などで出土しています。人形は病やケガで痛めた人がお同じところに印などをつけ川などに流すことで病が癒えることを祈ったと考えられています。また、それら祭祀を行う場を斎串で囲い、結界としてその内側を清浄な空間として祭祀を行っていたと思われます。

本遺跡からは斎串や、祭祀に使われたと思われる記号の入った墨書土器が出土しています。それらは古代に川であったと推定される遺構から出土しており、水辺の祭祀が行われていたことを示しています。



水辺の祭祀のイメージ図

## 6. おわりに

本展では、平成25年・26年に福井県埋蔵文化財調査センターが発掘を実施した細呂木阪東山遺跡の調査成果から、須恵器、製塩土器、墨書土器、木製品に注目して展示しました。それぞれの遺物からいえることは、通常の集落からはあまり出土しないものが出ていることです。それらを考えあわせると、明確な遺構を伴っていませんが、本遺跡の周辺に役所的な施設があったと推測されます。もう少し追求するなら、津や古代道路、河川と接する交通の要所に置かれた郡衙の関連施設ではないかと思われます。そうであるならば、本遺跡のそばには中世以降の北陸道も通っており、それが古代道路につながる可能性もあります。

ただ、現段階で、これらはまだ推論に推論を重ねたものなので、今後の調査研究が待たれます。



遺跡のイメージ図

「北瀨湖ほとりの古代役所  
と塩づくり」

令和3年

7月6日(火)～8月29日(日)

あわら市郷土歴史資料館

福井県あわら市春宮二丁目14番1号(金津本陣IKOSSA2階)

TEL:0776-73-5158 FAX:0776-73-1038

あわら市郷土歴史資料館 検索

**アクセス** 電車:JR芦原温泉駅→郷土歴史資料館(徒歩15分)  
車:北陸自動車道金津インターチェンジより車で約15分  
(駐車場:普通車46台・身障者用2台、軽自動車1台)

